

元島民の決意表明 力強く

東京に響く領土返還への声



北方領土問題の早期解決に向け、国内世論を高めることを目的とした北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会が主催の「北方領土返還要求中央アピール行動」が、「返還運動原点の日」である12月1日に東京で行われ、元島民や北方領土返還要求運動連絡協議会をはじめ東京根室会、都道府県民会議など全国の返還要求運動関係者総勢77団体、約500人が銀座から日比谷公園までの約2キロを行進しました。

京橋プラザ区民館で行われた出発式には、川端内閣府特命担当大臣、石田内閣府副大臣など過去最多となる26人の来賓が激励に駆け付け、主催者を代表して長谷川市長が「返還要求運動原点の地の責務として、今後とも国の領土交渉を支える国民世論の構築のため、皆さんとともに返還運動にまい進する。」とあいさつし、今回初めて行われた決意表明では、多摩島出身の寺嶋利三郎さんが「この怒りと無念の思いを希望



昨年に続き2回目となった47都道府県旗を掲げての行進

と願いの声に代え、力強く行進する。」と決意を述べました。

行進は昨年引き続き、国民の総意の証として47都道府県旗と隣接地域根室管内5市町旗をなびかせ「島を返せ」「国民世論を盛り上げよう」とシュプレヒコールとともに、こぶしを突き上げながら中心街を練り歩き、北方領土の一日も早い返還実現に世論の結集を訴えました。

同じく、北方領土返還要求街頭啓発事業の一環として3日間にわたり新宿駅西口広場で開催された北方領土展には、北方領土に関するパネル91点が展示され、3万を超える多くの来場者でにぎわい、領土問題に対する関心の高さを示していました。